

CNA Report

News & Analysis Focusing On Audio/Video/Data Collaborative Conferencing Market

Independent & Unbiased Perspective Since December, 1999

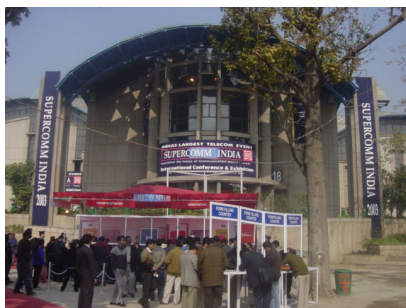
電話会議・テレビ会議・データ会議(Web 会議)専門ニュースレター

SPECIAL EDITION 毎月 15 日・月末発行 創刊 1999 年 12 月 8 日

発行人/編集人: 橋本啓介(Keisuke Hashimoto) kay@rr.ij4u.or.jp Copyright 2003 ケイ・オフィス All rights reserved.

インド SUPERCOMM INDIA 2003 リポート

インドではコンファレンシングといえばテレビ会議と捉えるのが一般的



写真左:ニューデリー・プラガティ・メイデン Hall18 受付

インドへ初めての訪問

1月20日から22日までインド、ニューデリー

で電気通信関係の専門展示会である SUPERCOMM INDIA 2003 が開催された。今回初めて渡印し参加したが、19日に現地入りする予定が、成田の出発が遅れ、濃霧でデリーに着陸できないなどでムンバイ経由、20時間遅れでデリーに着いた。この時期のデリーの霧はいつもだそうで、前日のフライトも同じように半日遅れたようだ。

SUPERCOMM INDIA



写真左:会場内模様

SUPERCOMM INDIA2003 は、ニューデリーのプラガティ・メイデンというコンベンションセンターで開催され、ホール18で開催

された。ここ数年毎年開催されているようで、アメリカの TIA(テレコミュニケーション・インダストリー・アソシエーション)などが主催しインド政府のお墨付きもついているインドではメジャーな展示会のようだ。昨年の実績で、来場者数は 8000 名、出展者数 125 社、今年の数値は聞いていないのでわからないが、同じような感じじゃないかと思う。この展示会は単に展示会だけでなく、時間がなく

聴講する機会はなかったが、ワイヤレス、ブロードバンド、セキュリティ、CRM、次世代ネットワークなどがテーマに、3日間さまざまなセッションが行われたようだ。写真は撮った時間が朝一番だったので人出はまばらだが最終日などはすごい数の人が来ていた。

会場に入ると、すべての出展者がひとつのホールに入っているの、高台みたいなところから見渡せるが、入り口で、まずは、BSNL と呼ばれるインドの電気通信事業者のブースが大きく設置されている。そこでは、電話サービス、ISDN ネットワークサービス、NOKIA の携帯電話、ビジネスホン、VCON のパソコンタイプのテレビ会議であるクルーザー(2台)などが展示されていた。VCON の製品には、来場者が囲み、もう一方のクルーザーに接続してデモをやっていた。

会場は日本での展示会の雰囲気はない。日本では、若い女性コンパニオンがパンフレットを配ったり、来場者を案内したり、ステージでは踊りがあつたりして、その写真を撮っている男性などをよく見るが多分これは日本だけじゃないかと思う。ここまで“華やかに”やっているのは。日本は変わった国なのかもしれない。

SUPERCOMM の会場は、BSNL のブースにあるステージで、チベット系の人の民族踊りを披露したり、BSNL クイズみたいなものをやっていた。(つまり加入者数で一番のところは、といったような内容、当たるとなにか景品を渡していたが)BSNL は、今回のダイヤモンドスポンサー。

VCON インド、リセラーのグローバス・インフォコム社

VCON のイスラエルベースのアジア太平洋地区担当副社長のジョセフ・ダニエル氏と、VCON インドのカントリーマネージャーのハシャッド・コントラクター氏(バンガロール在)、そして VCON のインドのリセラーであるグローバス・インフォコム社 (Globus



Infocom Ltd.)の社員の方々に会いしてインドの現状についてVCON の立場からお伺いした。(前頁写真:グローバス・インフォコム社ブース&社員)ちなみに、グローバスは、デリーに本社を置き、ムンバイ、バンガロールなど合わせて 9 箇所にオフィスを置く。VCON 製品以外では、三菱製のプロジェクターや、韓国の LG などのプラズマディスプレイも取り扱っているが、それらと VCON 製品を組み合わせた提案をユーザーに行っているという(グロービス・インフォコム輸出入担当ジェネラル・マネージャー、ハーシュ・コトハリ氏)。

同社も SUPERCOMM 会場に 4mx6m ぐらいのシンプルなブースを構え、VCON のファルコンや上記のプロジェクターやプラズマディスプレイなどを展示していた。

VCON テレビ会議の売上は徐々に拡大

インドのテレビ会議市場については、ジョセフ・ダニエル氏は、ビジネスミーティングや経営会議、または遠隔教育などのアプリケーションで利用されていると言っていた。特にインドだから違った使い方があるというわけではなく、欧米日本と同じような使い方がされているそう。インドでは国土が広いのでこういったテレビ会議などのツールは注目されているようで、VCON の同市場での「売上については急激ではないが徐々に拡大している。」(同ジョセフ・ダニエル氏)

インド国内のテレビ会議に対する関心は高いが市場としてはこれから

インドに Express Computer とよばれるオンラインウェブマガジンサイトがあり、インドのテレビ会議市場についての記事が掲載されていた (Videoconferencing makes inroads into corporate India) が、それには、インドのテレビ会議端末市場は、約 50 億円、3000 端末出荷、現在は ISDN ベースが多いが今後数年以内に IP ビデオの利用が増大すると見られているといったような趣旨の内容がかかっている。

これについてジョセフ・ダニエル氏に意見を求めると、「3000 端末までは行っていないと思う。」現在のところそこまで売上がたつほどの市場までは成長していないとの見方をしていたが、インド国内での関心は高まっているそう。やはり、たとえば、今回訪問したグロービス社などはインド国内に 9 箇所の拠点があることから、移動にかかわる時間、労力、コストは膨大だと考えられる。土地が非常に広大なため、いちいち飛行機などで移動するのは大変なので関心が高まっているのだろう。

インドのテレビ会議端末輸入関税は 47%

しかし、インドでは、テレビ会議システムの輸入関税は、47% だそうで非常に高関税であるため、国内で販売する際に、その関税がユーザー価格に反映されるためテレビ会議製品も高価にならざるを得ないという現状があるそう。アジアでも高いほうじゃないだろうか。中国は 35% とこの前の香港訪問で聞いたが、インドはそれ以上ようだ。

IP テレビ会議への移行はゆるやか

また、IP への移行については、ジョセフ・ダニエル氏によると、「IP へのニーズはあり、IP への移行は今後むしろゆるやかに進むものと思われる。(先出のインドの市場について書かれている記事によると、) 2 年後に 70% のテレビ会議が IP だと予想しているが、そんな短期間でそこまでいっかは疑問だ。」

その他、ダニエル氏からは、インドでは、政府向けの通信サービスを提供する組織として NIC (National Information Center) というのが 1995 年に設立され、それ以降テレビ会議多地点サービスなどが提供されているそう。VCON は、またインドの大学へも導入事例や衛星を利用したテレビ会議の利用事例なども紹介してくれた。

TATA テレコム、ポリコムのリセラー



今回は、会場ではなかったが、TATA テレコムの、メッセージングとコンファレンシングを担当している国内営業担当マーケティング・マネージャーのヴィヴェーク・ポルワル氏 (写真左

Viewstation と一緒に) にもお話を聞く機会が持てた。彼のオフィスは、デリー市外にあり、私が滞在しているところから車で 1 時間かかる場所だったが、ランチを用意していただき、食事をしながらのミーティングとなった。

現在、TATA テレコムは、インドの TATA 財閥とアメリカのアバヤ (Avaya) が共同で出資して設立した会社。現在、TATA テレコムは、1991 年からポリコムの製品と、Avaya の MCU を取り扱っている。ポルワル氏はインド国内全体を統括しているマネージャーで非常に忙しい日々を送っているようだ。

インドでもタンバークの追い上げ強し、インドでのテレビ会議端末年間は 500 台程度、市場規模は 10 億円程度か、インドでも中国

と同じく、コンファレンスというテレビ会議を指す場合が多い

ポルワル氏には、プレゼンテーションルームでパワーポイントのスライドでTATAテレコムの概要と現在の導入先、事例などをまず説明してもらった。TATAテレコムは、マルチベンダー対応ではなくポリコム一社のみ国内販売しているが、最近ではタンバークの追上げがやはり強いと言っていた。

が、しかし、先述のインドの記事の話をして、彼の意見を聞いてみたが、やはり、年間3000台は多すぎるようで、多分周辺装置、たとえばプロジェクターなども含まれて数えられているのではないかとの見方をしていた。ポルワル氏の推測によると、「インドでのテレビ会議端末は、年間で500台ぐらいじゃないか。」ということで、彼が見せてくれた統計数値によると、インドのコンファレンス市場は、年間850億USドル(約10億強円)程度だろうと言っていたが、「テレビ会議は最近非常に注目されてきているが、インドではコンファレンシングというテレビ会議をさす場合が多い。」そうだ。ポルワル氏によると、「感じとしてアジア人と西洋人の違いがあるかもしれない。テレビ会議はどちらかというアジア人向きで、電話会議などは欧米人向きなのかもしれない。」というコメントは非常に興味を持った。

国内でもVSNLなどの多地点接続サービスを提供している電気通信事業者も6-7社いるようであるが、音声会議サービスを提供しているところは、2、3社位しかないと言っていた。やはり、会議をするときは、顔を見てやったほうが非常にいいという意見。やはり相手の顔が見えないと不安になる場合があるからか。

テレビ会議への関心、グローバル化などが背景、ポリコム製品とAvayaのMCUでの導入実績多し

しかし、テレビ会議の関心が高まっている背景としては、グローバル化とビジネスの自由化、また、生産性の向上、迅速な意思決定が可能であるといったようなことがあるようだ。また、こういったところが、テレビ会議を導入しているかという話もあり、銀行や金融関係が非常に多いと言っていた。またそのほかでは、コンサルティング、拠点が複数箇所ある企業、また、e-政府の一環としての活用、また教育機関などで利用されていると言う。メジャーなユーザー名も紹介してもらったが、多国籍企業や大企業が中心のようだ。また、外資系企業もあった。また、国内24箇所を結んだテレビ会議の事例などもあり、テレビ会議に内蔵されているMCUを使うよりは、MCU装置を利用したサービスプロバイダーを利用したほうがどちらかというところが多いという。TaTaテレコムでは、ポリコムのテレビ会議製品とAvayaのMCUのバンドルでの導入実績が多いそうだ。

ISDN テレビ会議は日本と同じ128kbpsが多い

また、テレビ会議の使用回線だが、現在もっとも多いのがISDNの128kbpsだそうだ。これは日本とも似ているなど思ったが、最近では384kbpsのクオリティから128kbpsから384kbpsへ移行してくるユーザーもいるそうだ。また、ポルワル氏によると、現在インドでは、テレビ会議の30%はIPで行われていると見ている。また、Viewstation128のインドでの価格は、日本のポリコムが出している定価とほぼ同じだが、ポルワル氏も、47%の高関税について話していた。また、VCONのダニエル氏も述べていたが、NICの存在は非常に大きいようだが、現在は、VSNL、リライアンスなどの通信事業者が新興企業としてコンファレンスのサービスも提供しているのが状況。

帰国後の感想

昨年12月に香港にいて、中国人などから、コンファレンシングというテレビ会議という意味だということを知り、インドではどうかと思いつつ、限られた人数の人たちであったが、音声会議もあるが、どちらかというテレビ会議がより関心があると言っていた。日本もどちらかという、テレビ会議により関心があるような状況である意味で、今まで特異な市場と見られていたくらいであったが、最近では業績発表に音声会議を利用する企業が増えていると聞かされた。たとえば、新聞データベースなどで、音声会議、テレビ会議と検索すると圧倒的にテレビ会議という言葉が出てくる記事数が多い。

インドは、中国と同様今後もCANレポートで可能な限りワッチしてレポートしていく予定。

(インドレポート終わり)

インドレポート連絡先

1. **Globus Infocom Ltd.(New Delhi)** VCONリセラー
Mr. Harsh Kothari G.M. Import-Export
Tel. 91-11-26567701 globus@bol.net.in
2. **VCON** Mr. Joseph Daniel VP APAC
josephd@vcon.co.il
3. **TATA TELECOM Ltd.(Gurgaon)**
Mr. Vivek Porwal National Marketing Manager
Messaging & Teleconferencing
Tel.91-124-65605000 vivek@tatatelecom.com

CNA Report 編集長 橋本 啓介 kay@rr.ij4u.or.jp
TeleSpan (米)コントリビューティング・エディタ ジャパン
Videoconferencing Insight(英) 日本担当通信員
<http://www.hkeis.jp>

* 内容等にお問い合わせの際は上記メールアドレスまでお願いいたします。